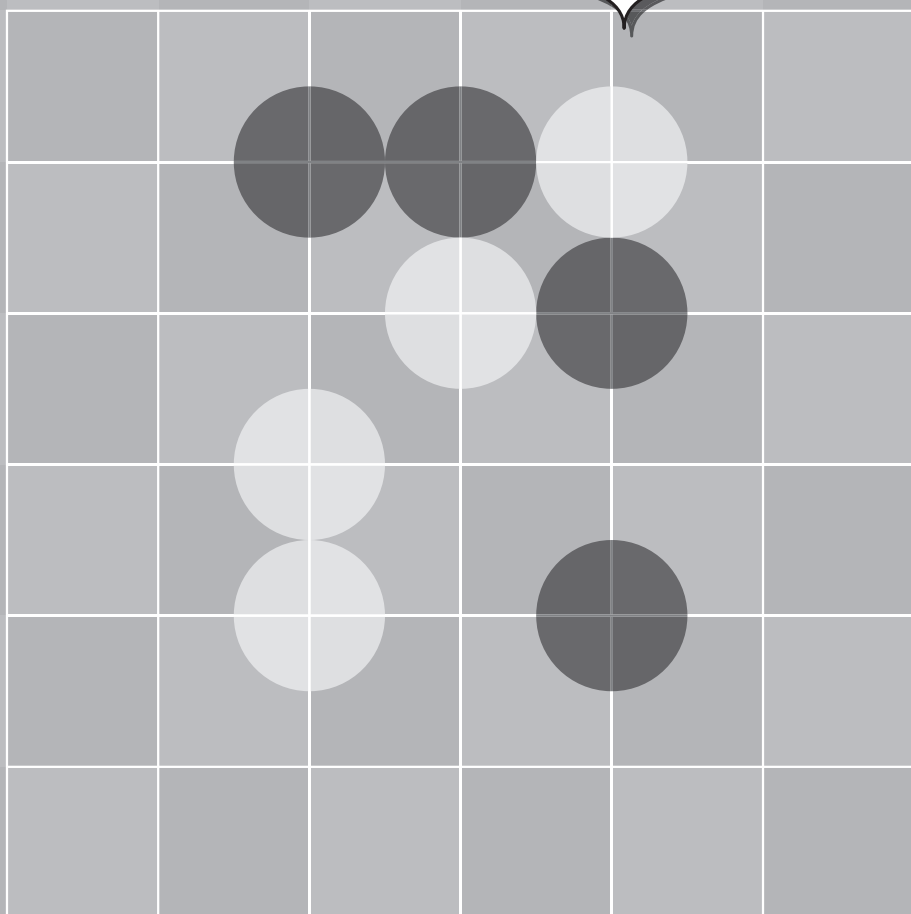


# 囲碁入門

7路盤



1

第2章

# 目次

はじめに――2／基本の道具――4／基本のマナー――5／囲碁の目的――6／本書でおぼえるルール――8

## 第1章

石の置き方と石のつながり〈ルール1・ルール2〉――11

ルール1 黒石と白石を交互に交点に置く――12

ルール2 縦横の線で隣り合った石は二つの仲間になる――13／①石を置いて孤立した石をつなげる――19／②相手の石がつながらないように切る――25

## 第2章

石の取り方〈ルール3〉――33

ルール3 線の出ていない石は取れる――34／①仲間の石の取り方――39／②石を置いて相手の石を取る――45／  
③相手に取られないように逃げる――57

## 第3章

置けない場所とその例外〈ルール4・ルール5〉――65

ルール4 線が出ない所には置けない(着手禁止点)――66

ルール5 線が出ない所でも、相手の石を取れる場合は置ける――73

## 第4章

総合問題――81

おわりに――92

コラム……囲碁の歴史――32／世界の囲碁――64／マナーの大切さ――80

## 第2章

# 石の取り方 （ルール3）

どうすると石が取られてしまうのか、  
また相手の石を取るには  
どうすればよいのかを学びます

# 線の出ている石は取れる

石を置いていく過程でお互いの石が接近すると、盤上の石が取ったり取られたりします。

石を取る際に着目する点は「石から線が出ているかどうか」です。

石から線が1本でも出ていれば、その石は盤上に残ることができます。

逆に、相手の石を囲んで「出ている

線をすべてふさぐ」ことができれば、

その石を盤上から取ることができ

のです。

1図をご覧ください。黒石から上

下左右に4本も線が出ています。1

本でも線が出ていれば生き残れるわ

けですからまだ大丈夫です。

それでは、2図になるとどうで

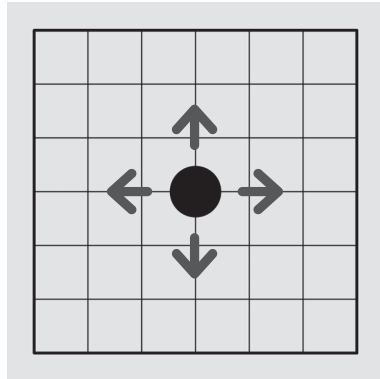
しょうか。白4子に囲まれて、⊗か

らは1本も線が出ていません。こう

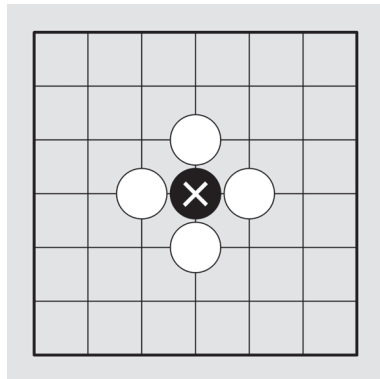
なると、⊗は白に取られて3図の状

態になります。

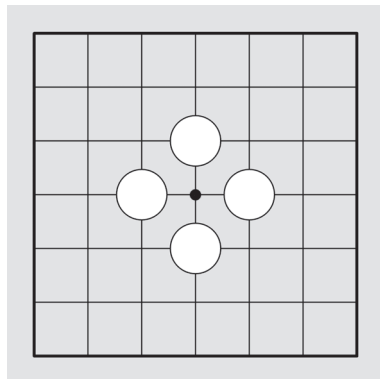
1図



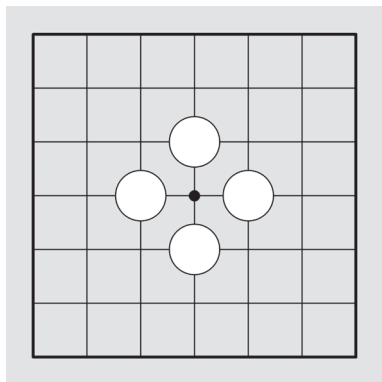
2図



3図

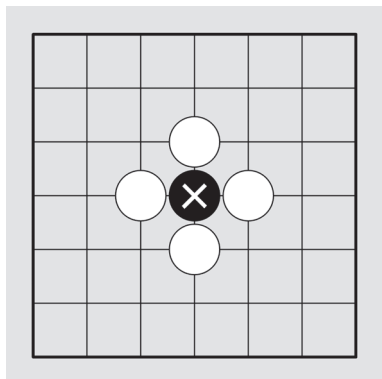


## 4図



石を取った跡地は、**4図**のようにそのまま空けた状態にしておきます。相手の石を取った跡地に自分の石を埋めるゲームもありますが、囲碁ではその必要はありません。囲碁は陣地の大きさを競うゲームですから、跡地を埋めると損をするケースが多くなります。

## 5図



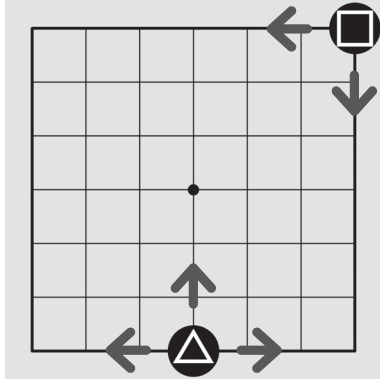
囲碁を始めたてのころは、**5図**のように取るべき石を取り忘れて、そのままになっていることがよくあります。その場合は、「線の出ていない石」に気づいた時点で取り除いてください。まずは、石を取ることに慣れることが大切です。

盤上から取り除いた相手の石は、自分の碁笥のフタに保管しておきます。

対戦が終わって得点計算をする際、取った石は1子につき「1点」として、自分の得点になります。相手に返さないで大切に保管しておきましょう。

なお、線をふさいだ石を盤上からきちんと取り上げるまでが、その人の番です。自分が石を置く際には、相手が取るべき石をすべて取ったことを確認してから置きましょう。

6図

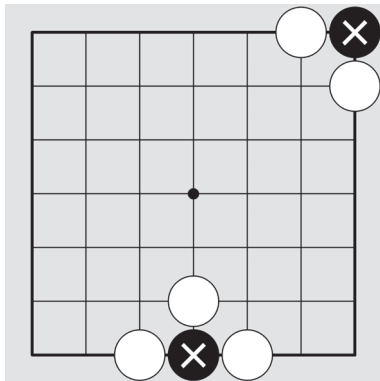


石を取ったり取られたりする時におぼえておきたい点がもう1点あります。

盤の端から先には、線が出ていません。したがって、**端や角にある石は、少ない石数で取れる（取られる）**ということなのです。

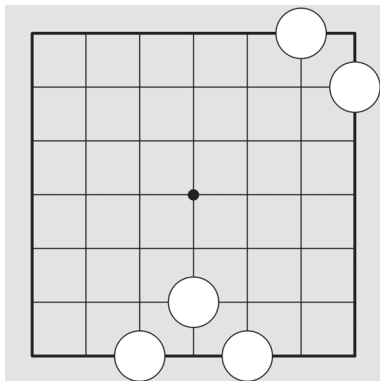
6図の黒石をご覧ください。下端

7図



……→ ●×2

8図



にいる▲は、線が3本しか出ていません。右上角にいる●にいたっては、線が2本しか出ていないのです。

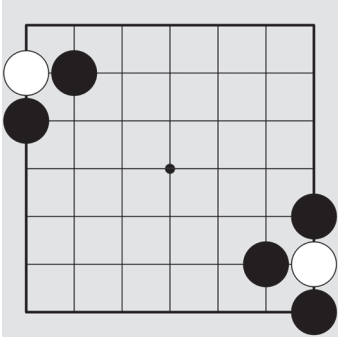
つまり、端や角に置かれた石は7図のように少ない石数で囲むことができるので、あつという間に8図の取り上げられた状態になってしまいます。

上手に対戦するコツ

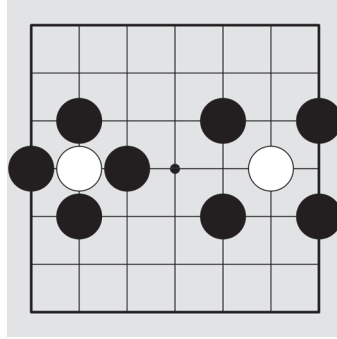
- ・相手に取られやすい端や角には置かない、または向かわない

盤の中央の石であれば34ページのように4子が必要なので、端や角の石は取られやすいということがわかります。

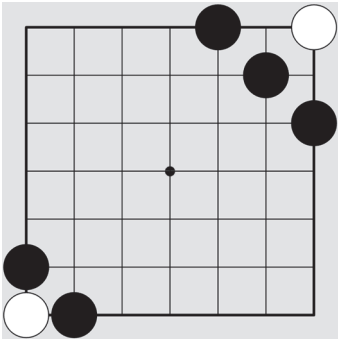
第40問



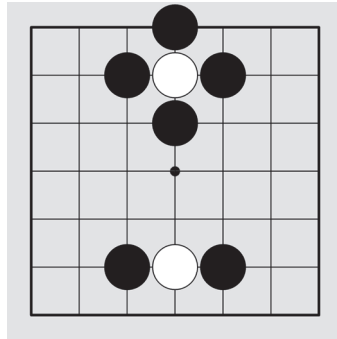
第37問



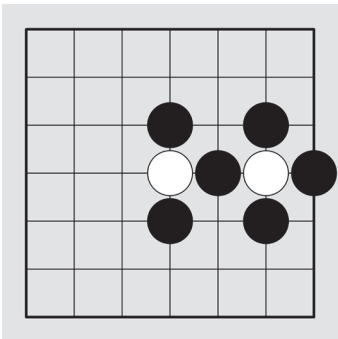
第41問



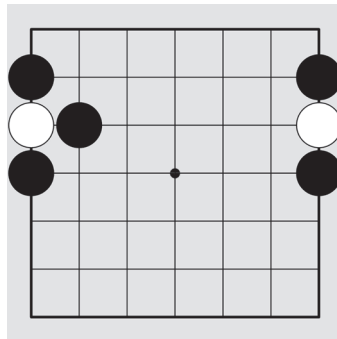
第38問



第42問

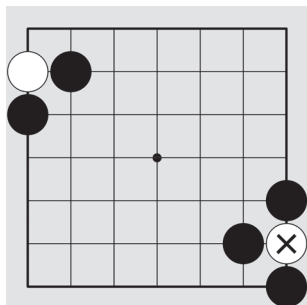


第39問

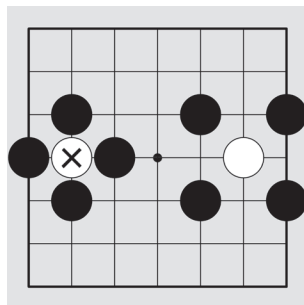


取れる白にXを書いてください

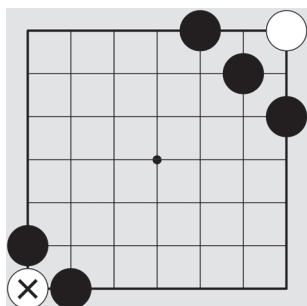
### 第 40 問



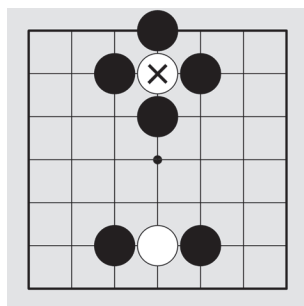
### 第 37 問



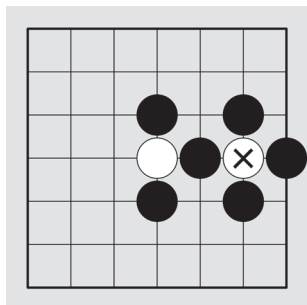
### 第 41 問



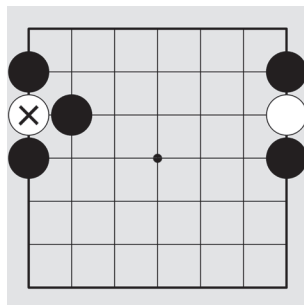
### 第 38 問



### 第 42 問

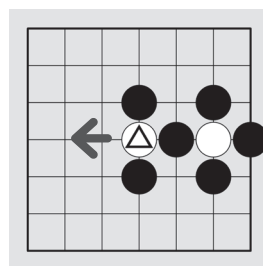


### 第 39 問



#### 第 42 問 参考

△からは、矢印の方向に線が出ているのでまだ取れません。  
石から出ている線がすべてふさがれた状態でないと、取ることはできないのです。





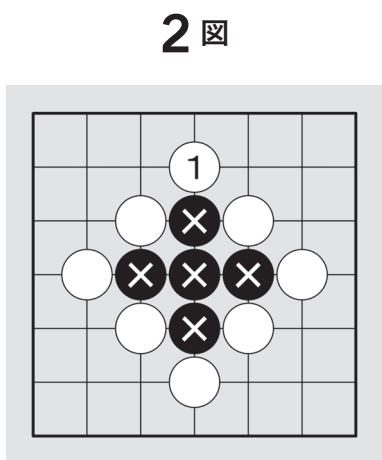
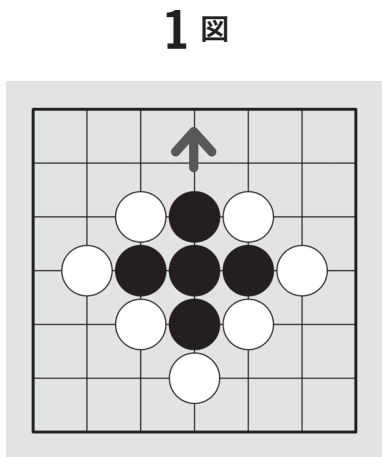
**ルール3** 線の出ていない石は取れる

# ① 仲間の石の取り方

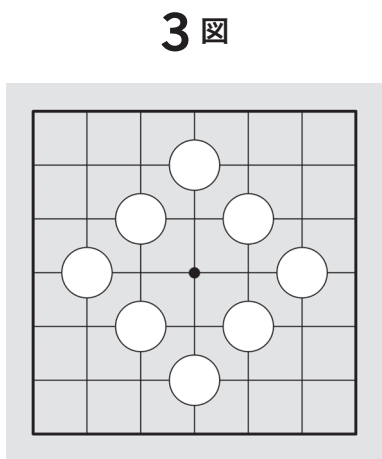
石の取り方は理解できたでしょうか。相手の石が2子以上の仲間であつたとしても、考え方は同じです。

相手の仲間の石を囲んで、**出ている線をすべてふさげば、つながっている石ごとまとめて盤上から取ることが**できるのです。

1図は、黒石が5子の仲間になつ



.....> ●×5



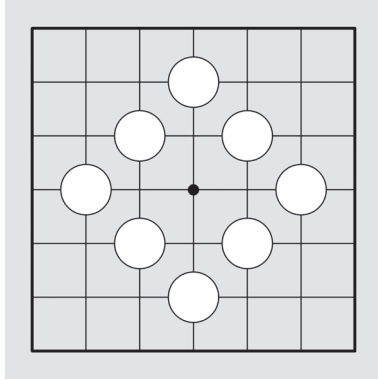
ています。矢印の場所に線が1本出ているので、この状態ならまだ盤上に生き残ることができま

す。しかし、2図になるとどうでしょう。1図の矢印に①を置かれると、黒5子の仲間は線がふさがれた状態になりました。

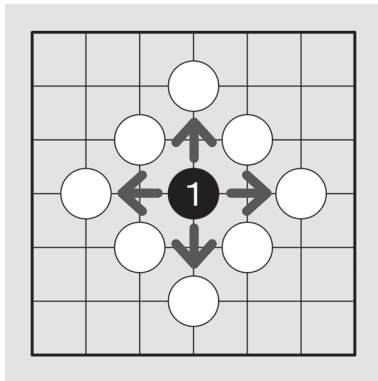
こうなると黒5子は白に取られて、3図となります。盤面がすっかり真っ白になってしまいました。

石数が多いほどふさぐ線も多くなるので、囲み方も複雑になります。仲間から出ている線をよく見て石を置きましよう。

#### 4図



#### 5図



よく「石を取って（取られて）空いた所に、新たな石を置けるのか」という質問を受けることがあります。基本的には、**新たに置いた石から線が出る場所ならば、何度でも取った（取られた）所に置くことができます。**

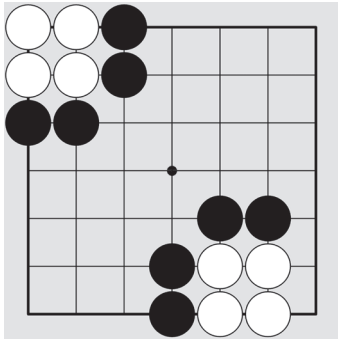
39ページと同じ図を使って説明しましょう。たとえば、**4図**のあとに**5図**の**①**と置くことができます。①は線が4本出ているので、置くことができるわけです。これは「良い手・悪い手」といったことではなく、「ルール上、置くことができる所」ということです。

しかし、置いた瞬間に線が1本も出ない場合は、「置いてはいけな所」となります。「置いてはいけない所」については、65ページからの第3章で詳しくお話しします。

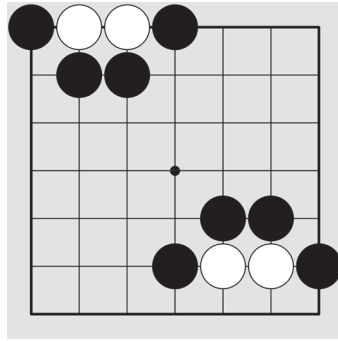
**5図**からも、囲碁は「石を取られても再び挑戦ができるゲーム」ということがわかるのではないのでしょうか。相手に石を取らせることによって、有力な手段が生じる局面になることもあるのです。

一般的に使われる「捨石<sup>すていし</sup>」という言葉も、囲碁が語源といわれており、大きな目的のために「石を捨てる」ことの大切さを教えてくれますね。

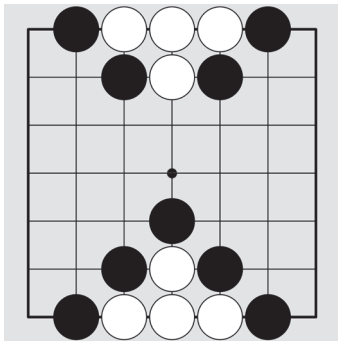
第46問



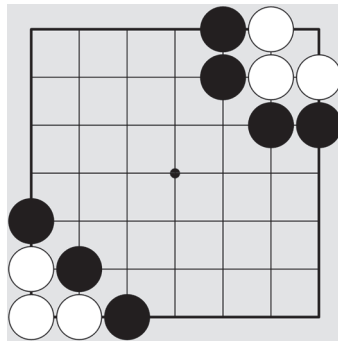
第43問



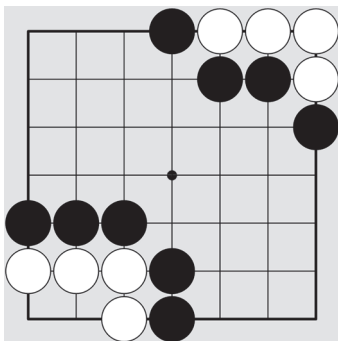
第47問



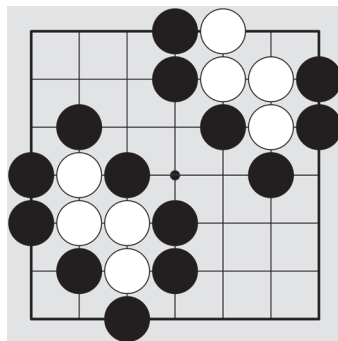
第44問



第48問

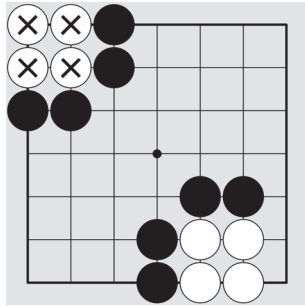


第45問

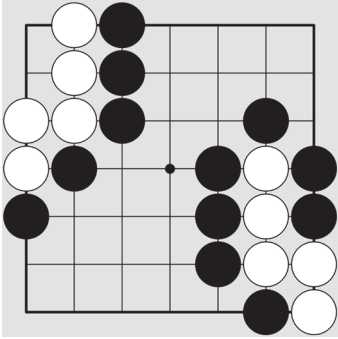


取れる白に×を書いてください

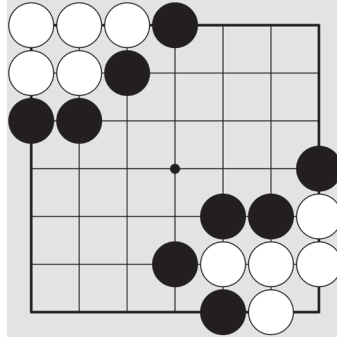
第 46 問



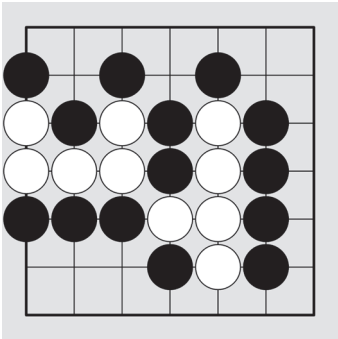
第 52 問



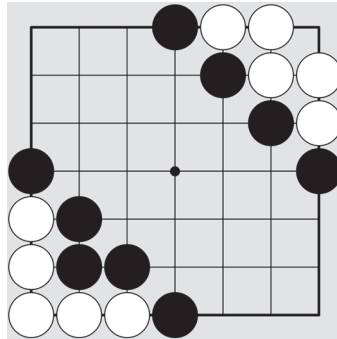
第 49 問



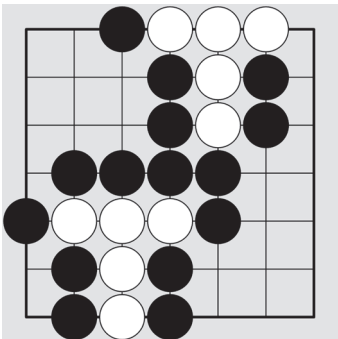
第 53 問



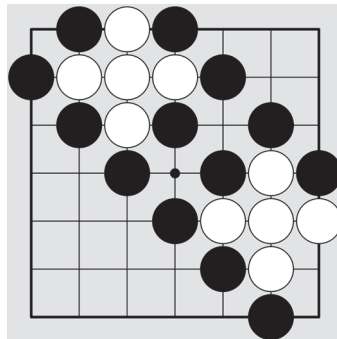
第 50 問



第 54 問

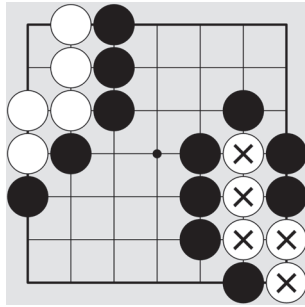


第 51 問

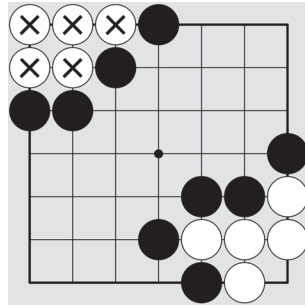


取れる白にXを書いてください

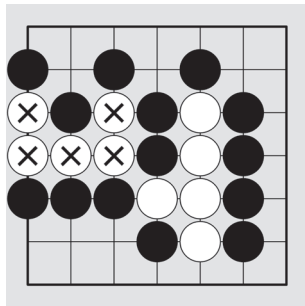
第 52 問



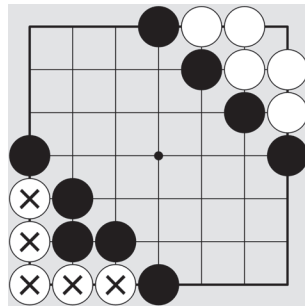
第 49 問



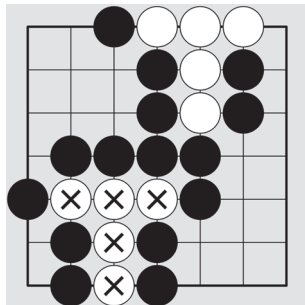
第 53 問



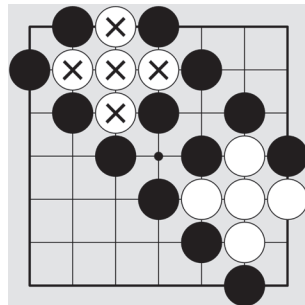
第 50 問



第 54 問

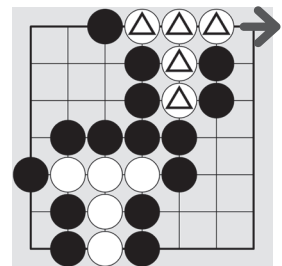


第 51 問



第 54 問 参考

△からは、まだ矢印に線が1本残っていました。盤の端にある石は出ている線が探しにくくなるので、気をつけましょう。



**ルール3** 線の出ている石は取れる

# ② 石を置いて相手の石を取る

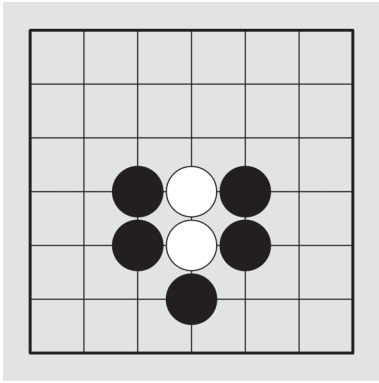
石を取る時は、出ている線の少ない石に目星をつけておき、自分の番になったら石を置いて取ります。

具体的な手順を見ていきましょう。  
1図の状態、黒の手番になったとします。

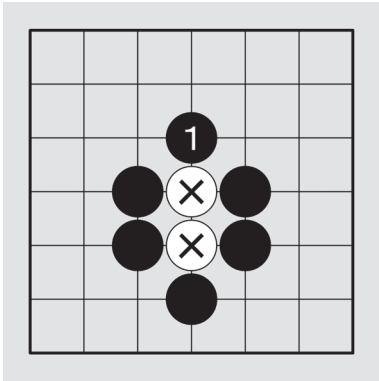
- 石を取る手順
- ① 囲める場所に石を置く(2図)
  - ② 線の出ている石を盤上から取る(3図)
  - ③ 取った石は自分の碁笥のフタに入れる
  - ④ 相手の番になる

囲碁をおぼえたてのうちには、この一連の流れが難しいと思いますが、何度も試合を繰り返すことで慣れていくことが大切です。取る石が多くなってくると手間取ることもありませんが、慌てずていねいに取るべき石を取り、周りの石を崩さないよう気をつけてください。

1図

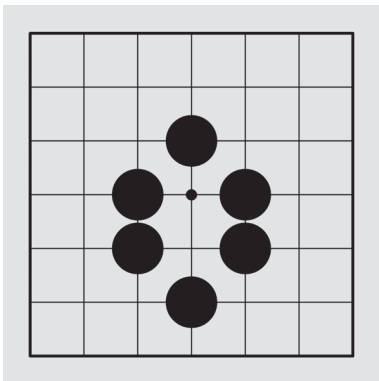


2図

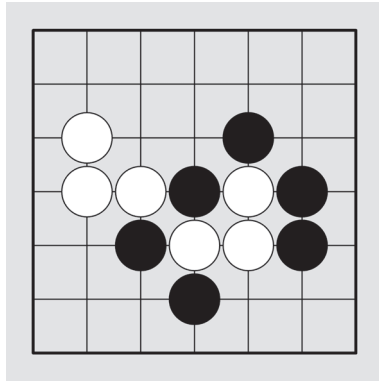


.....> ○×2

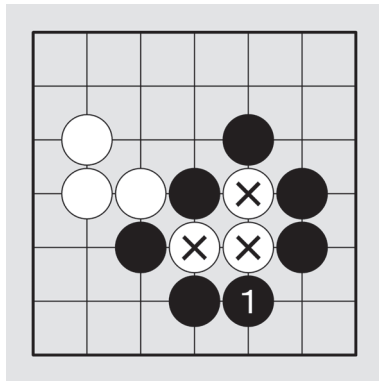
3図



4図

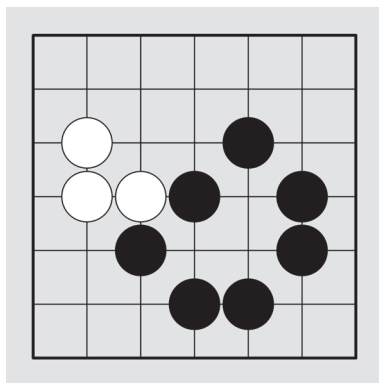


5図



.....> ○×3

6図



4図をご覧ください。白石から出ている線が、あと1本だけになっている仲間の石があります。

この白石のように、次にその場所を「ふさがれる」と取られる状態のことを「アタリ」といいます。囲碁を打つ人はよく使う言葉なので、おぼえておくと便利です。

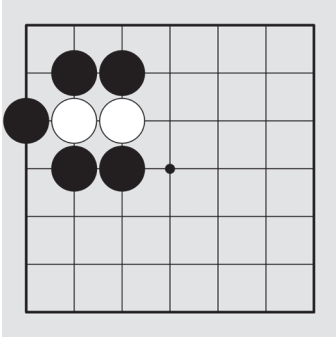
ただ、試合の途中でアタリ状態の石があったとしても、「アタリ」と声に出して言う必要はないのでご注意ください。

アタリを見つけたら、5図↓6図のように冷静に相手の石をふさいで、3子を盤上から取りましょう。

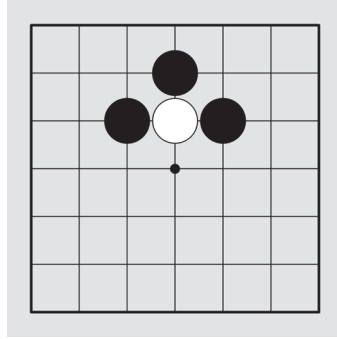
相手に自分の石を取られると「悔しい」と思われる方が多いでしょう。しかし、囲碁をおぼえたての頃は石を取られるのが当たり前です。「こうして石は取られるのか。勉強になった」と、前向きに考えることで早く上達できるようになります。



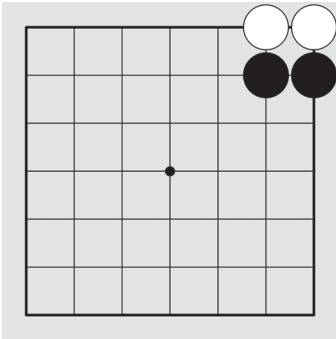
第 58 問



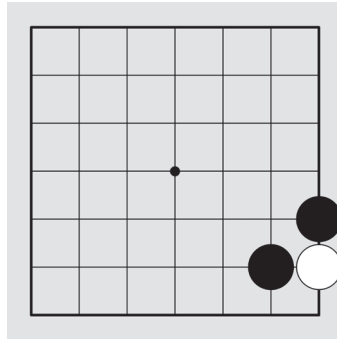
第 55 問



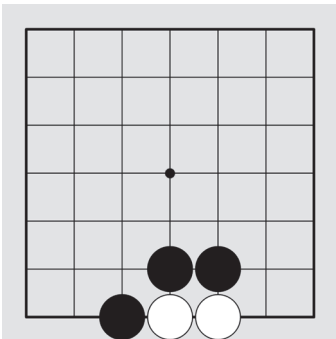
第 59 問



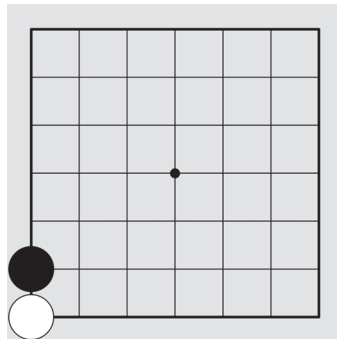
第 56 問



第 60 問

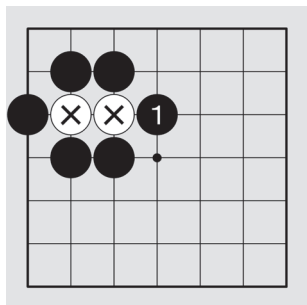


第 57 問

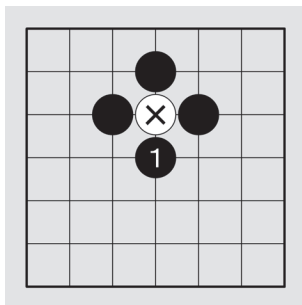


黒を一つ置いて白を取ってください

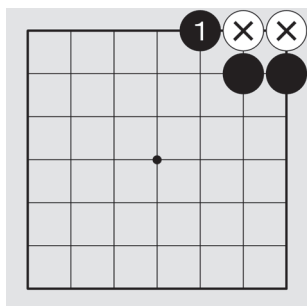
第 58 問



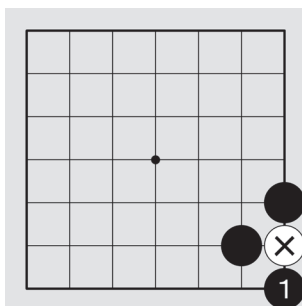
第 55 問



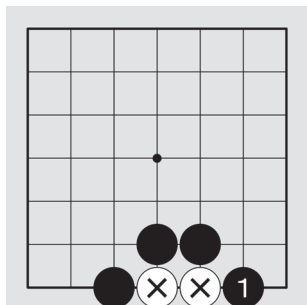
第 59 問



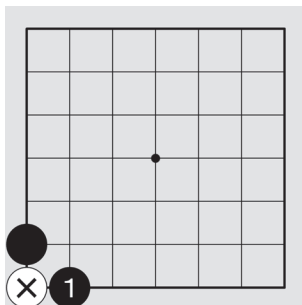
第 56 問



第 60 問

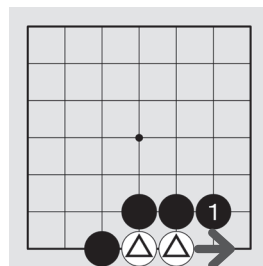


第 57 問

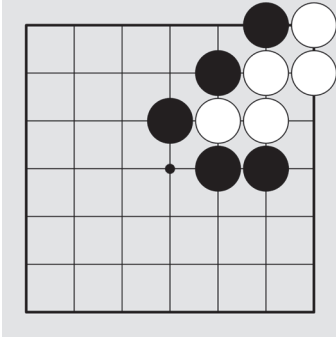


第 60 問 参考

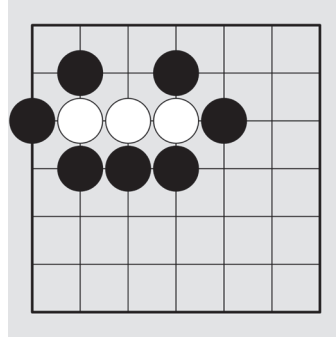
①のようなナナメの場所は、線をふさいだことにはなりません。この状態では矢印に線が残っていて、△を取ることができないのです。



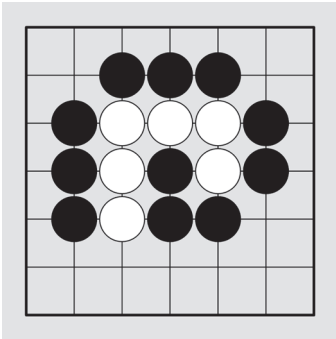
第 64 問



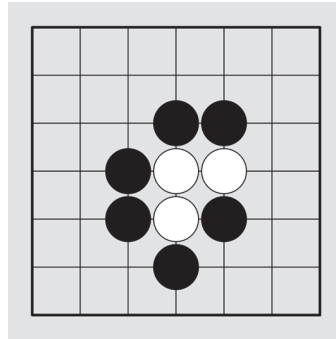
第 61 問



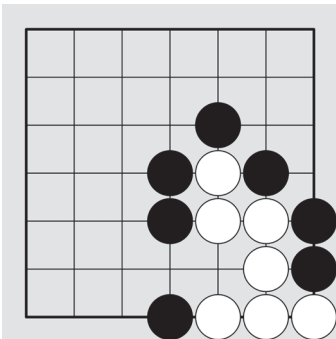
第 65 問



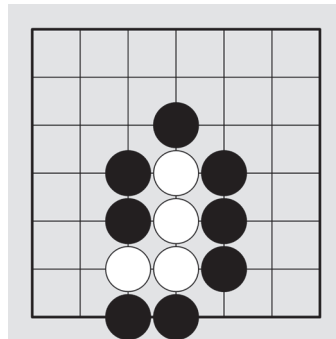
第 62 問



第 66 問

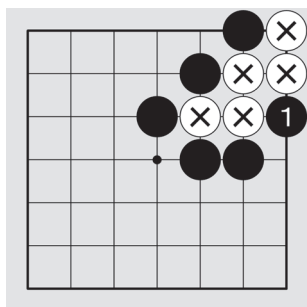


第 63 問

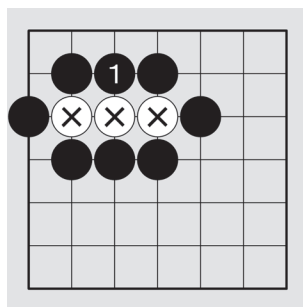


黒を一つ置いて白を取ってください

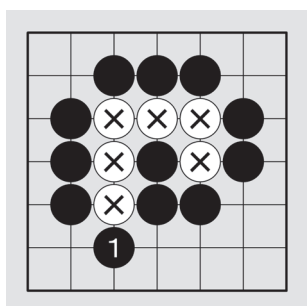
第 64 問



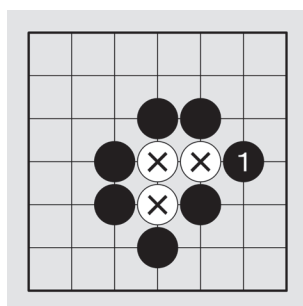
第 61 問



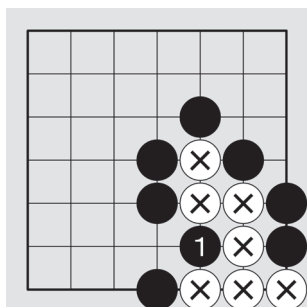
第 65 問



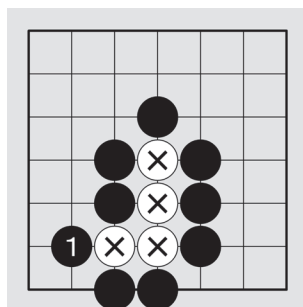
第 62 問



第 66 問

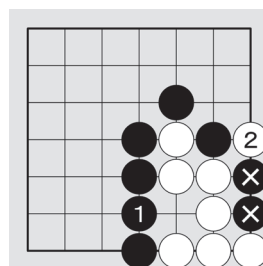


第 63 問

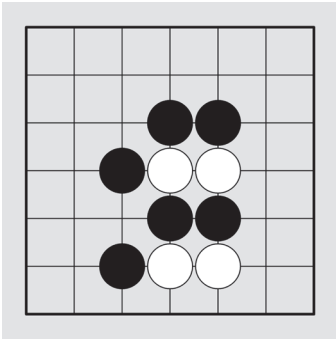


第 66 問 参考

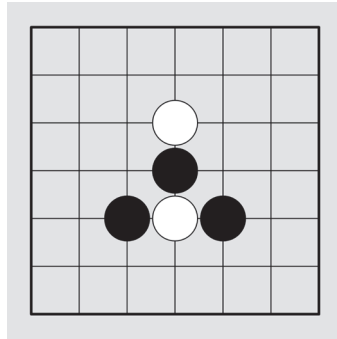
①では白の線をすべてふさいでいないため取れません。②に置かれると、逆に⊗を取り上げられてしまいます。



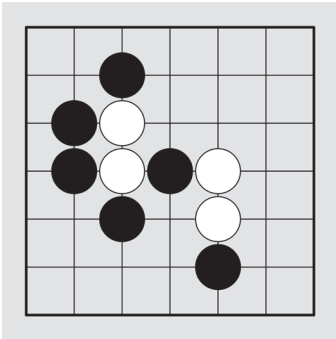
第 70 問



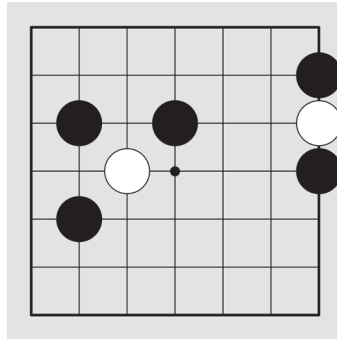
第 67 問



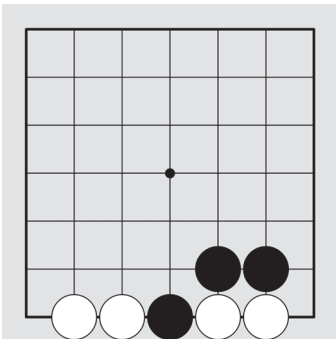
第 71 問



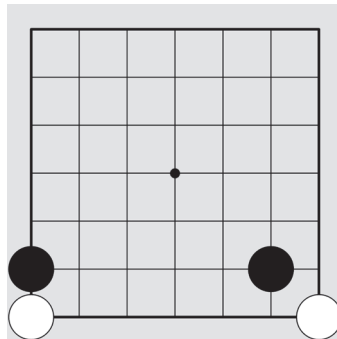
第 68 問



第 72 問

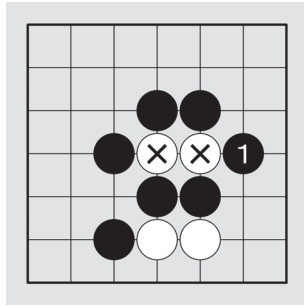


第 69 問

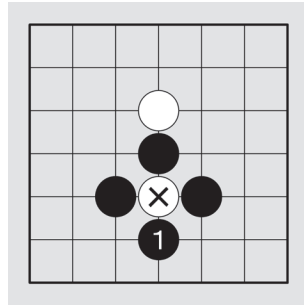


黒を一つ置いて白を取ってください

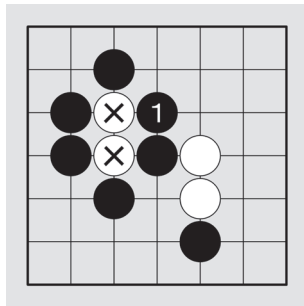
第 70 問



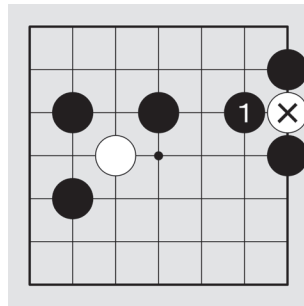
第 67 問



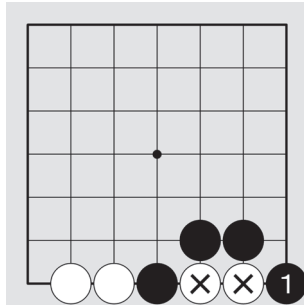
第 71 問



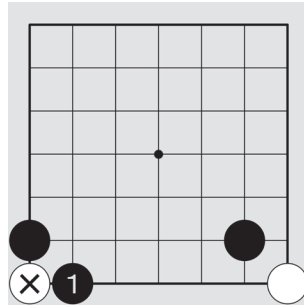
第 68 問



第 72 問

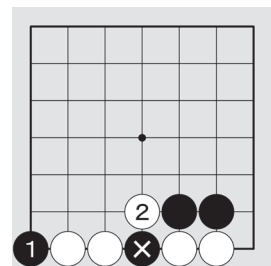


第 69 問



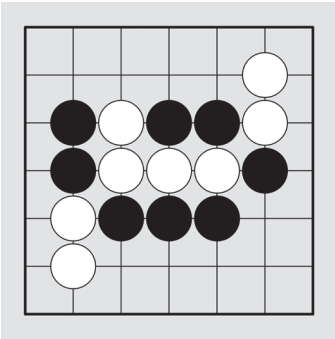
第 72 問 参考

①と両側から白を挟んでも石は取れません。出ている線をすべてふさがないと、②に置かれてⓧが取られてしまいます。

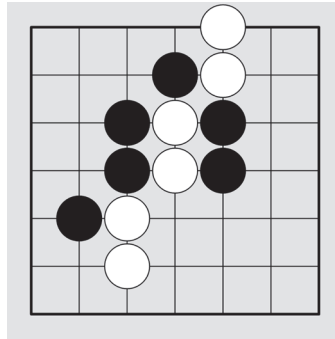


黒を一つ置いて白を取ってください

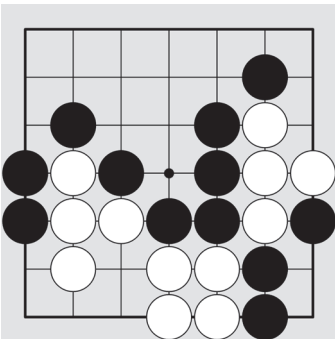
第 76 問



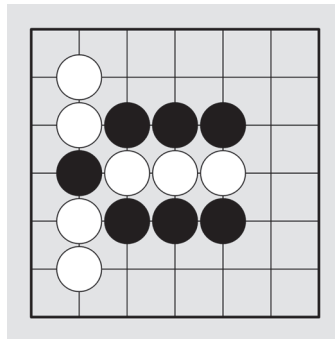
第 73 問



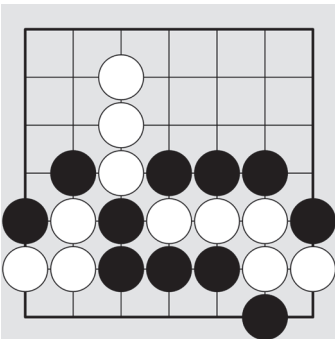
第 77 問



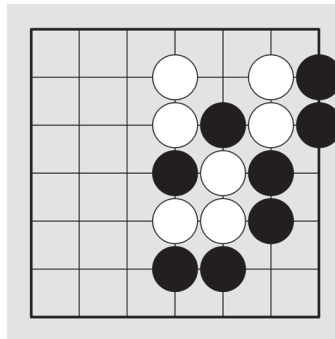
第 74 問



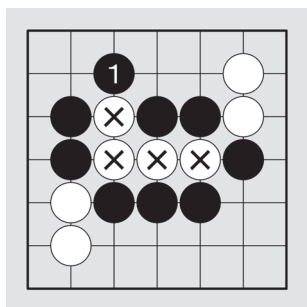
第 78 問



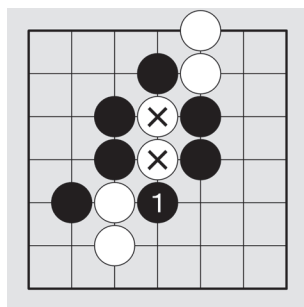
第 75 問



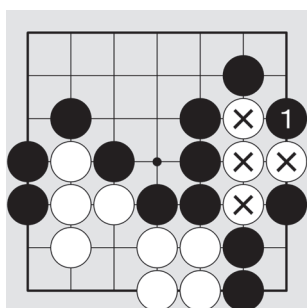
### 第 76 問



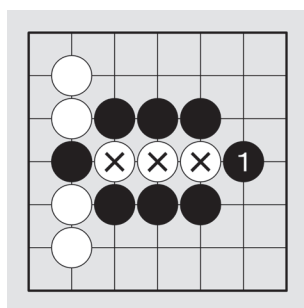
### 第 73 問



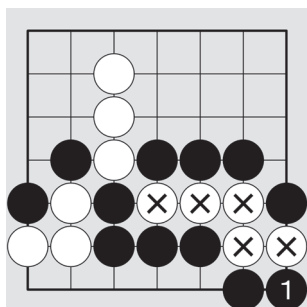
### 第 77 問



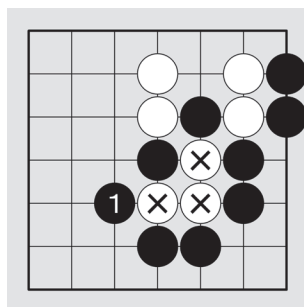
### 第 74 問



### 第 78 問

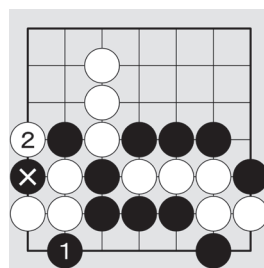


### 第 75 問



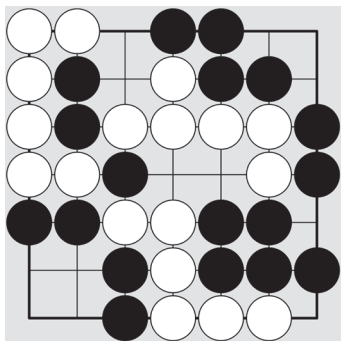
#### 第 78 問 参考

①へ置いても、白の線をふさぐためにはあと1子足りません。その間に②へと置かれて、⊗が取られてしまいました。

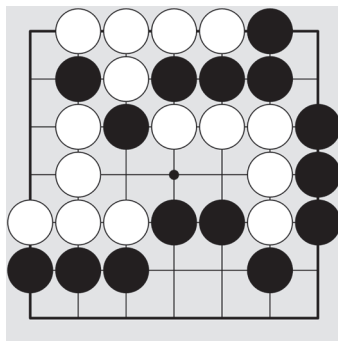




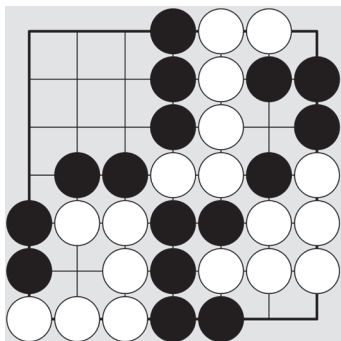
第 82 問



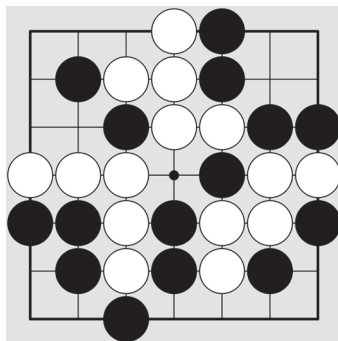
第 79 問



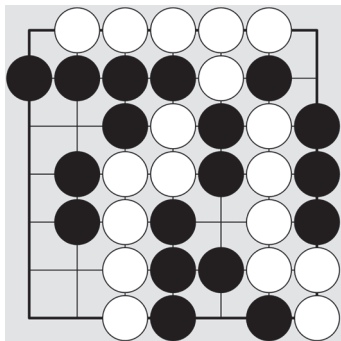
第 83 問



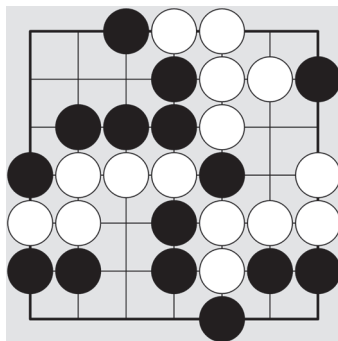
第 80 問



第 84 問

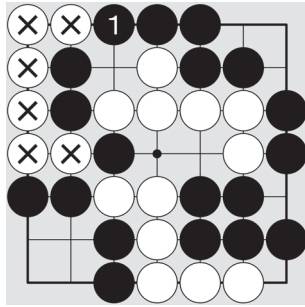


第 81 問

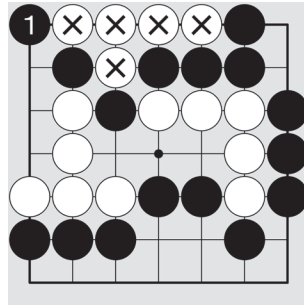


黒を一つ置いて白を取ってください

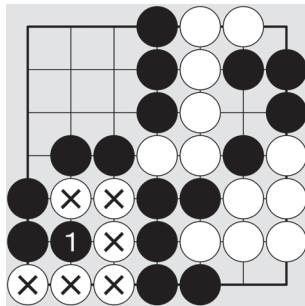
### 第 82 問



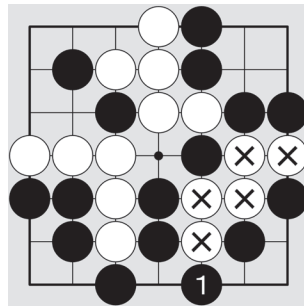
### 第 79 問



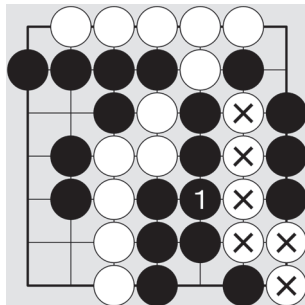
### 第 83 問



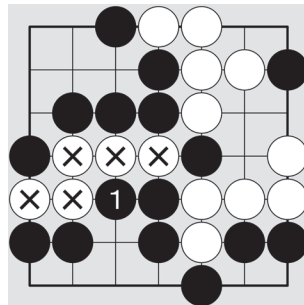
### 第 80 問



### 第 84 問

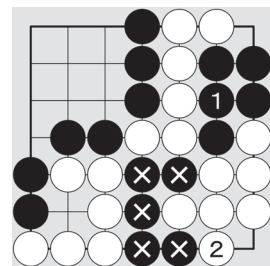


### 第 81 問



#### 第 83 問 参考

①に置いても、右上の角に線が 1 本残っていました。次の手で②に置かれて、⊗が取られてしまいます。

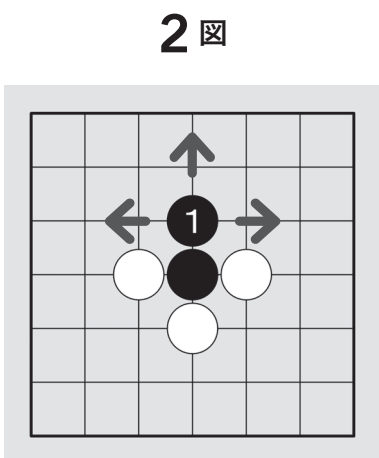
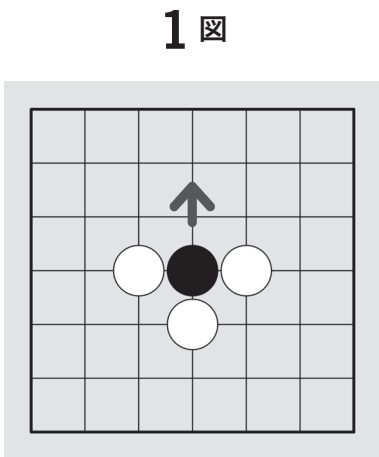


ルール3 線の出ている石は取れる

# ③ 相手に取られないように逃げる

石を取ることを「攻め」だとすると、当然「守り」もあります。つまり、相手に取られないように「逃げる」ということです。逃げ方の具体的な方法は、次のおりです。

1 図の黒石は、白3子に囲まれた



つあり、石から出ている線があと1本となつています。この状態がアタリです。

そこで2 図の①と置き、仲間にして出ている線を増やすことで、相手から逃げることができました。

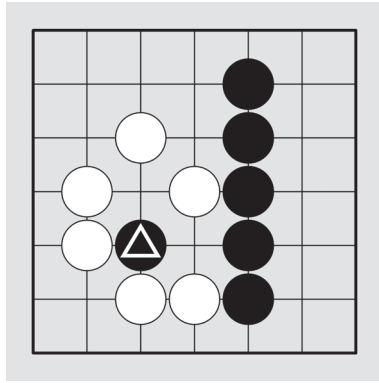
このように、石をつなげて出ている線を増やせば、アタリでも取られずに攻めをかわすことができるのです。

自分の石から出ている線が4本 ↓3本 ↓2本と少なくなっていく早い段階で、線が減っていることに気がついて逃げる事ができれば、相手に取られる可能性は少なくなります。

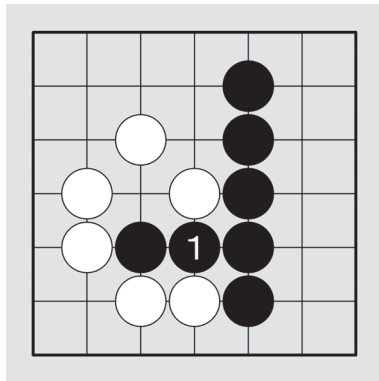
上手に対戦するコツ

- ・取られそうな場所に石をつなげて仲間にする事で、石から出ている線を増やす

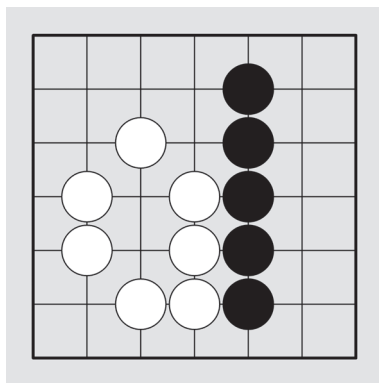
3 図



4 図



6 図



57 ページでは、相手に取られそうな石から1子つなげて逃げましたが、さらに安全な逃げ方が「石数の多い仲間につなげて逃げる」ことです。

3 図の△は白に囲まれつつあり、危険な状態です。

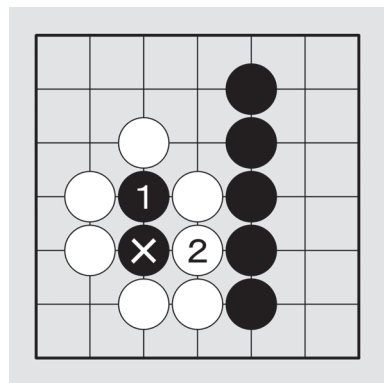
そこで4 図の①と置き、右側の仲間とつながることで、孤立していた黒石を助けることができました。

上手に対戦するコツ

- 取られそうな場所に石を置いて石数の多い仲間につなげることで、より安全に逃げられる

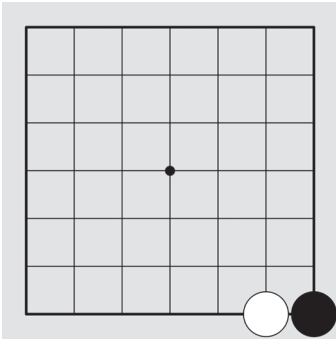
ここで、5 図の①のように仲間がない所へ逃げるとどうなるでしょうか。黒の向かった先には白が待ち構えており、②で右側の黒石と切り離されて取られてしまいました。

5 図

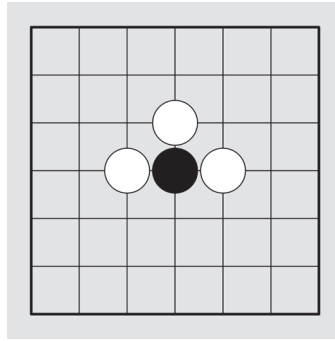


…→ ●×2

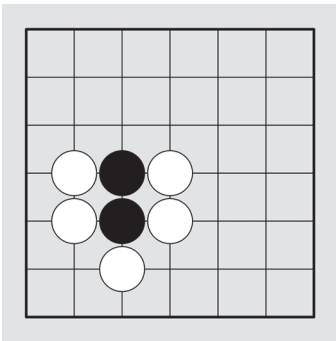
第 88 問



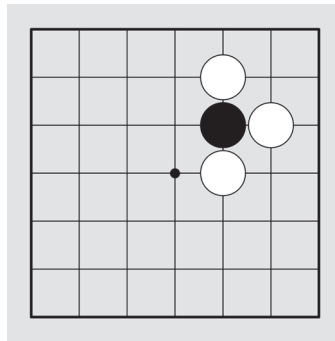
第 85 問



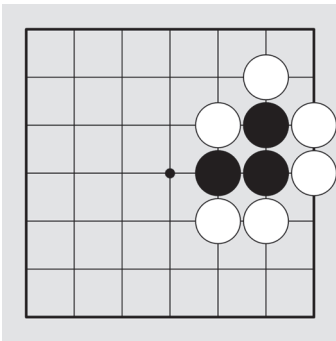
第 89 問



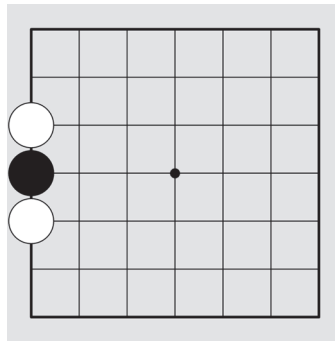
第 86 問



第 90 問

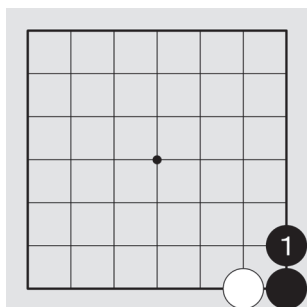


第 87 問

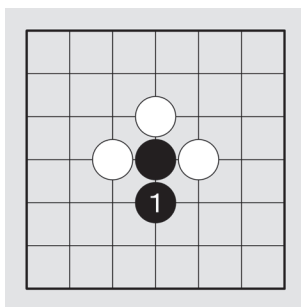


黒を一つ置いて白から逃げてください

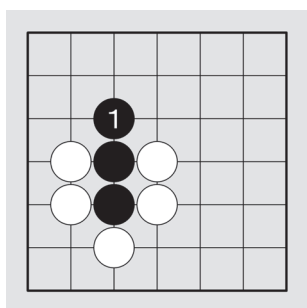
### 第 88 問



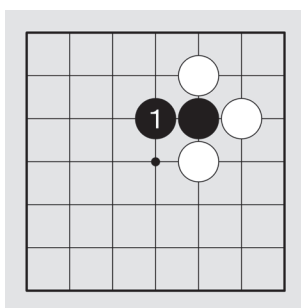
### 第 85 問



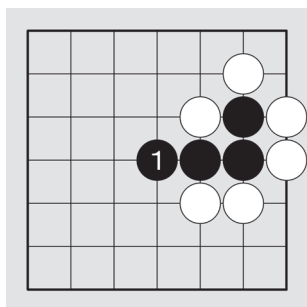
### 第 89 問



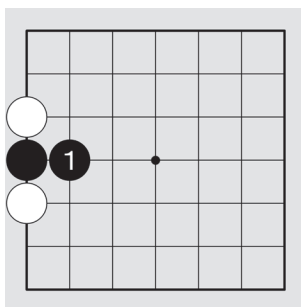
### 第 86 問



### 第 90 問

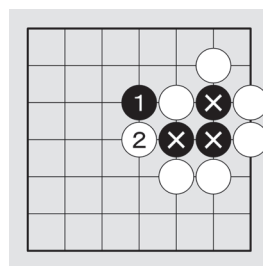


### 第 87 問

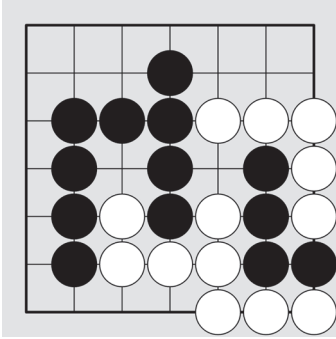


#### 第 90 問 参考

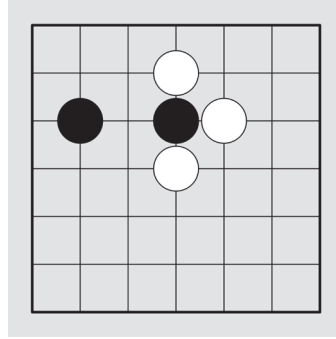
①と黒3子はナナメ同士のため、つながっていません。②で黒の線をふさがれて、⊗が取られてしまいました。



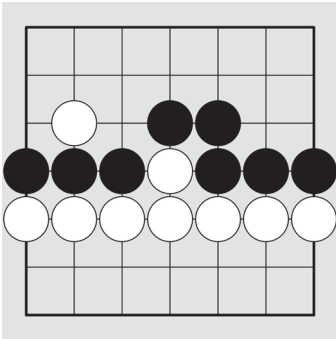
第 94 問



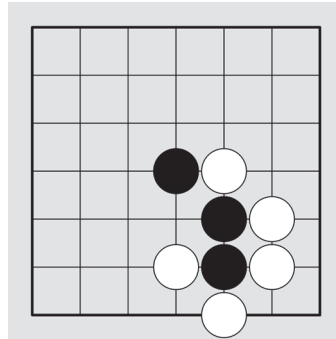
第 91 問



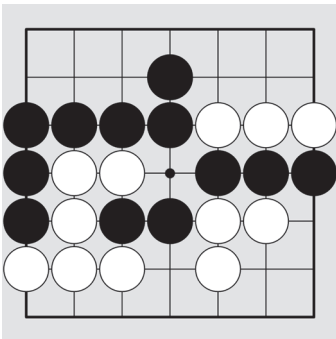
第 95 問



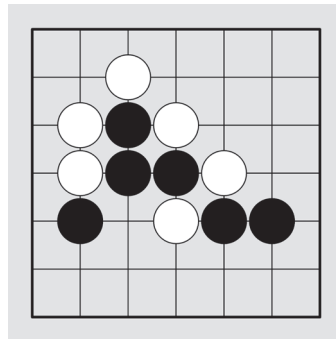
第 92 問



第 96 問

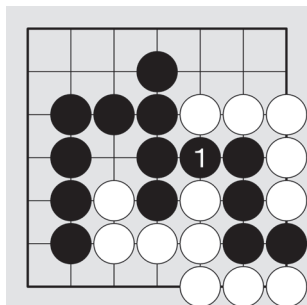


第 93 問

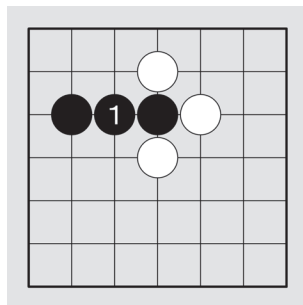


黒を一つ置いて白から逃げてください

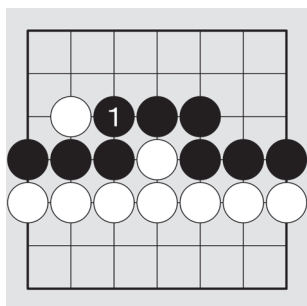
### 第 94 問



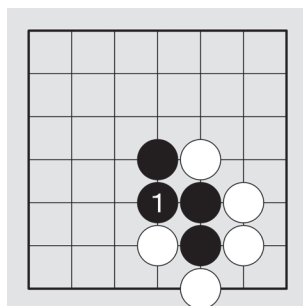
### 第 91 問



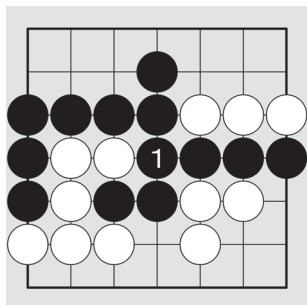
### 第 95 問



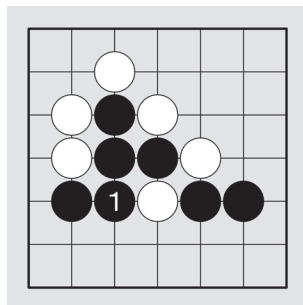
### 第 92 問



### 第 96 問

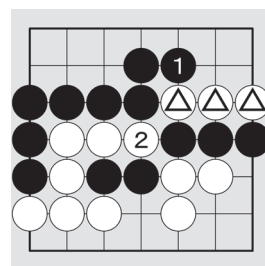


### 第 93 問



#### 第 96 問 参考

①で△を取ろうとするのは欲張りな手です。②へと置かれると黒が切られて、一つの仲間になれるはずの黒石がバラバラにされてしまいます。



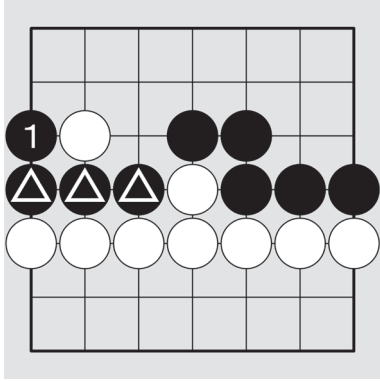


# 解説

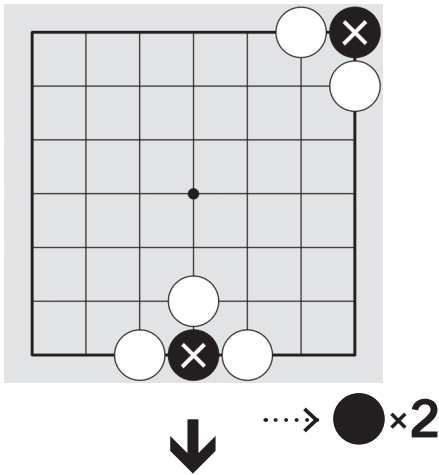
第95問の失敗図が**1図**です。

**1図**の①に置いて、右側の黒5子とはつながりません。そのうえ、端に石を増やしても出ている線の数は増えません。▲3子だけの時は出ている線が2本でしたが、▲に①が加わって黒4子になっても、残りの線は2本のままなのです。

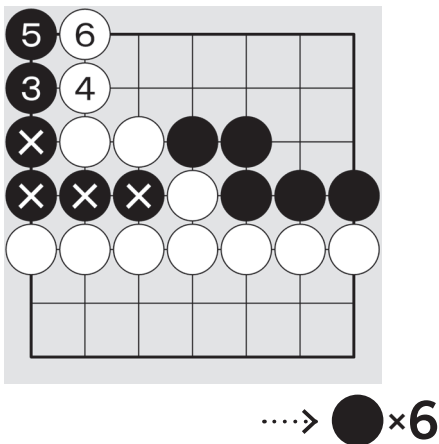
1図



2図



3図



**2図**の②が、▲4子を右側の黒5子と切り離しながら線を減らすよい一手でした。切った②と□から出ている線は2本です。

こうなると▲4子から出ている線は端の1本しかなくなるので、そこを目指すよりありません。

**3図**のようにひたすら端の線から

逃げようとしても、出ている線は一向に増えず、挙げ句の果てには⑤の角まで追いつめられて行き止まりです。⑥で黒6子がまとめて取られてしまいました。

端は線が増えず、逃げにくい場所だということがよくわかります。

# 世界の囲碁

現在、世界には200ヶ国ほどの国がありますが、そのなかで囲碁を打っている人がいる国は約70ヶ国だといわれています。

囲碁発祥の地といわれる中国や周辺アジアはもちろん、欧米・ロシア・カナダ・オーストラリアは20世紀から囲碁が盛んでした。最近では、東南アジアや南アメリカ・中東・アフリカなどでも徐々に普及しているようです。

囲碁がここまで普及した理由は、外国へ行きやすくなったことに加えて、インターネットによる影響が大きいです。現在は、インターネットを介して、誰でも気軽に対局できるようになりました。

世界の囲碁人口は40000〜50000万人といわれていますが、実際にはもっと多いのではないかと推測されています。

と推測されています。

囲碁打ちを職業とする「棋士」は、昔から日本・中国・韓国・台湾だけの制度でした。しかし、囲碁愛好家が増えたおかげか、近年ではアメリカやヨーロッパにも棋士制度ができてきたようです。

囲碁は「手談しゅだん（言葉が交わされなくても盤上で気持ちを通じ合える）」ともいい、近年では優れたコミュニケーションツールとして注目されています。盤上へ石を打つことが会話となるのです。

もちろん、「囲碁が世界中の人々に受け入れられる素晴らしいゲームである」ということが大前提にあります。

囲碁がますます広まって、世界の平和に貢献するゲームになっていくことを願って止みません。

---

# 囲碁入門① 〈7路盤〉

## 第2章

監修：棋士 水間 俊文

---

© NIHONKIIN All Rights Reserved.

〒102-0076 東京都千代田区五番町7-2

公益財団法人 日本棋院

☎ (03) 3288-8723

<https://www.nihonkiin.or.jp/>

---

本書掲載の文章・図版の無断複製・転載・印刷を禁じます。